

乃美地域センターだより

NO. 154

令和8年1月

～高校の再編・統廃合をめぐる動きについて～

2026年（令和8）午年（うまどし）がスタートいたしました。新年には必ず顔を見せていた私の孫も、今年は市内にある三校の中高一貫校受験をひかえて学習塾の特訓のため帰省できず、寂しい正月となりました。

今年も受験シーズン突入を前に、身近なところで顕在化している《**教育に関する話題**》を何点かお伝えしたいと思います。

1. 大学は少子化が進行する中で「大学淘汰・戦国時代」に突入

2026年から18歳人口がガクッと減り始め、大学の『**定員割れ**』が加速します。昨年の文部科学省の統計では、**私立大学での定員割れの大学は全国の私大の59.4校の実に59%にあたる316校**。特に地方の私大を中心に《**経営難**》で募集停止や統合が相次ぐとの**予測**がされています。大学の魅力向上のため広島修道大学では農学部（2027設置）、安田女子大学は女子大で初めての理工学部を2025年から新設するなど大学は生き残りをかけて大学淘汰の時代に対応しています。

2. 広島県都市部での「高校再編・統廃合」はどうなるのか

広島県教育委員会は2033年度までに「一学年四学級」を下回ることが見込まれる中山間地域をのぞく県立高校の再編を検討しています。具体的には広島市・呉市・尾道市などの《**22校を9校**》に再編することが素案として発表されました。今後、生徒数の減少と授業料の無償化で私立高校に生徒がながれることが予想されるため、学校を再編して教育現場を一層充実させることを再編の理由としています。主な対象校は表①の通りです。

対象校	学校名	対象校	学校名
海田（海田町）＋安芸南（安芸区）	海田	呉工業＋呉商業（呉市）	呉商業
呉三津田＋呉宮原（呉市）	呉三津田	竹原＋忠海（竹原市）	竹原
三原＋三原東（三原市）	三原	尾道北＋尾道東（尾道市）	尾道北
賀茂＋河内（東広島市）	賀茂	松永＋沼南（福山市）	松永
高陽＋高陽東（安佐北区）＋安西（安佐南区）	高陽		



3. 中山間地域の『1学年1学級』の小規模校の再編・統廃合は

(1) 『1学年1学級』の中山間地域の小規模校の再編に対する県教育委員会の指針は次のようになっています。

①各校に「学校地域活性化協議会」（学校関係者や市町の教育委員会等で構成）を設置して、その協議会において教育活動や部活動等における取組みの強化策を検討・実施し、全校生徒数が毎年度、収容定員の3分2（80人）以上となることを目指す。

②こうした取組みの結果、**2年連続**して「**新入学生徒数が収容定員の2分1（20人）未満**、または**全校生徒数が収容定員の2分1（60人）未満となった学校**については、学校活性化協議会の意見を聞いた上で地理的条件を考慮し、次のア～ウまでのいずれかとする。

ア. 「**近隣の県立高校のキャンパス化**」→近隣の統合県立校の分教室として位置づけ、現行の校地・校舎をそのまま使用しながら教育活動を行う。

イ. 『**中中学園構想**』⇒特定の中学校と緊密な連携による一体的な学校運営を行う。

ウ. 『**統廃合**』（市町立学校としての存続を含む）

(2) 賀茂北高校の存続にむけての取組み

地元の賀茂北高校は2018年（平成30）より定員40名の1学年1学級の小規模校に位置付けられることになりました。県教委の指針をうけ、地元の賀茂北高校存続をかけて「賀茂北高校活性化地域協議会」を結成（初代会長：花田卓美、二代目会長：為平邦彦、三代目会長：伊藤京三）。協議会の中でも賀茂北高校OBを中心とする実務者会議が中心となり、**学校の魅力化のため次のような具体的な取組みを推進**してまいりました。

まず卒業生からの寄付を基にした「稲葉教育基金」を創設。その基金を活用して、①学業並びにクラブ活動優秀者に「稲葉奨学金」の授与、②積極的広報の一環としてホームページの新規作成、③校内塾としての「サタケ塾」への支援、④バイク通学の許可、⑤学校PRのため高校の管理職と協議会合同による中学校訪問の実施、⑥下宿受け入れ家庭の確保、⑦通学費補助の要望書を市に提出⇒市当局からは学校魅力化の一環として生徒の各種資格取得のための支援金を補助するとの回答あり。

(3) 広島県内の小規模校の生徒数【●印は全校生徒数80人未満】

高校名	1年	2年	3年	全校生徒数	高校名	1年	2年	3年	全校生徒数
湯来南	27	18	20	65 ●	東城	12	20	30	62 ●
佐伯	33	40	27	100	上下	23	28	21	72 ●
音戸	20	23	28	71 ●	向原	19	17	15	51 ●
大柿	21	23	36	80	瀬戸田	21	29	39	89
加計	40	40	40	120	大崎海星	36	36	37	109
芸北	28	30	40	98	豊田	40	36	38	114
西城紫水	22	22	15	59 ●	賀茂北	40	22	23	85

表②は2025年現在の広島県内の小規模校の生徒数の概要です。(若干の誤差あり)

地元の賀茂北高校は2024年(令和6)に全校生徒数が72名と80名の基準を割りましたが、昨年は定員に近い新生を迎え、**2年連続の80名切りのピンチ**はまぬがれています。

本年度8月4日(月)のオープンスクールでは中学生63名、保護者34名の参加があり、「小さな学校、大きな夢」を校是に頑張る賀茂北高校への期待がうかがわれます。
願わくば一人でも多く地元中学校(豊栄+福富)からの入学が望まれるところです。

(4) 小規模校の統廃合は：《地域の声聞き最善探る》の方向に

これまで表②に見られる14校のうち2年連続で全校生徒数が80人を割った学校に対して、当初の県教委の指針通り、「**即統廃合**」になった高校は**現在まではありません**。大柿高校(江田島市)と瀬戸田高校(尾道市)が2017年・18年と2年連続で80人未満となりましたが、いずれも地域活性化協議会と学校さらには市の支援などの一体化した取組みが実って、志願者数が増える見込みとなり、統廃合は見送りとなっています。

当時の県教委の幹部は今後の小規模校の統廃合の展望を次のように語っています。

『高校が**地域の人材育成で果たす役割は大きい**。子どもが各地域で「生きる力」を育む学校づくりを進め、広島県全体の教育水準を保つという視点で、全県的に検討していく必要があるという姿勢は変わらない。もちろん、小規模校は個別指導がしやすいなどの良さもある。**基準に当てはまる学校が出れば、その都度、地域の意見を聞きながら最善の選択を探りたい。**』と。

← 賀茂北高校の魅力の一つ：資格取得講座
《賀茂北だより10月号より》

資格取得講座

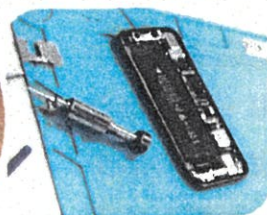
本年度も東広島市の支援を受けて、資格取得事業を開講しました。

生徒は、「ドローン」「美容(メイク)」「英検」「食品衛生責任者」「ファイナンシャルプランナー」「プログラミング」「スマホ整備」「障害者支援・同行援護従事者」の資格取得に励んでいます。

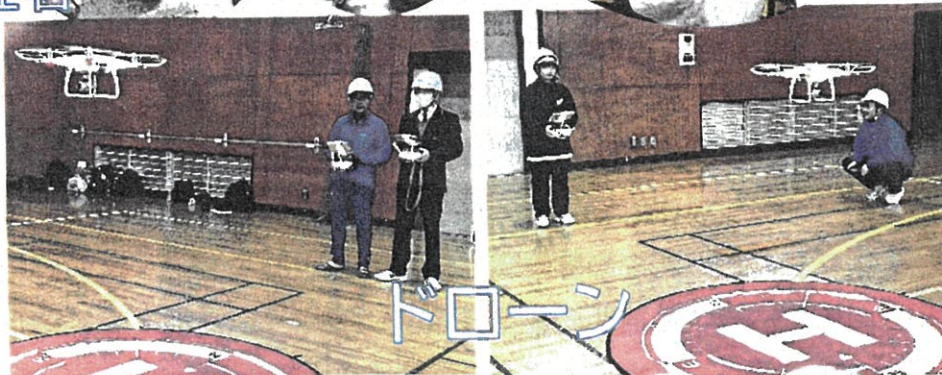
「スマホ整備講座」では、ガラスコーティングやバッテリーの交換の技術を習得し11/2(日)のセントルマルシェでも活躍しました。



食品衛生責任者



スマホ整備



ドローン



★今年も地域センターの玄関前に、地域の皆様の安全と豊穡を願って立派な《門松》を飾っていただきました。自治協役員の常田武則さんを中心に、川本泉さん・浅井裕行さんの協力で完成いたしました。